

大宰府と飛鳥・太宰府市と明日香村



西暦660年、朝鮮半島の百済が唐に滅ぼされたことを受け、斉明天皇は飛鳥に滞在していた百済王子を帰国させ、救援のため自ら筑紫へ下りますが、翌年、朝倉宮で亡くなります。

子の中大兄皇子（後の天智天皇）は代わって指揮をとり派兵しますが、663年白村江の戦いで敗れ、唐・新羅の侵攻に備えて664年に水城、665年に大野城・基肄城を築きました。天智天皇はまた、斉明天皇の供養のため観世音寺を

発願しました。弟の天武天皇に代わり外交が盛んになると、新羅使をもてなすため舞踊や音楽を披露する「伎楽」が飛鳥川原寺から筑紫に送られ、それが観世音寺に伝えられたと考えられています。

飛鳥時代、日本の政治・文化の中心地であった明日香村と、日本の外交と防衛の最前線であった太宰府市が、歴史・文化を生かした交流や防災面での協力を進めるため、まちづくりや防災分野で連携する包括連携

協定と災害時相互応援に関する覚書を締結しました。今後は、百済の最後の都だった韓国・扶餘郡とのつながりも視野に、友好を深めていきます。



▲令和8年5月27日(水) 協定締結式

五感で体感できる

「明日香まるごと博物館」



紹介します

奈良県 明日香村

Asuka Village,
Nara Prefecture



明日香村ってどんなむら？

明日香村は、奈良県北西部の奈良盆地南端にある風光明媚な村です。面積24・1平方km、人口約5千人で、古代日本が形成された6世紀末から7世紀末にかけて天皇（大王）が住まう宮殿や豪族・蘇我氏の邸宅が置かれた政治文化の中心地として知られています。

これを後世に伝えるため、「古都保存法」（昭和41年施行）や「明日香村特別措置法」（昭和55年施行）のもと、官民あげて歴史的風土や景観の保全に取り組まれています。



問い合わせ
国際・交流課（内線☎485）

ページID 49414

あすカルビー



【村の名産品】

けやき
楓



【村の木】

たちばな
橘



【村の花】



もりかわゆういち
森川裕一明日香村長と
「石舞台古墳」見学



「飛鳥」と「明日香」

万葉歌に「飛ぶ鳥の明日香」と詠まれており、「飛ぶ鳥の」は「明日香」に導く枕詞として知られています。このため「飛鳥」も「あすか」と読むようになったようです。

現在では、「明日香」は地名として使われ、「飛鳥」は奈良時代以前の歴史文化や時代に関わる呼称として用いられることが多いようです。

結果は9月号でお知らせします!!

登録!? 世界遺産

飛鳥、そしてこの北側に設けられた藤原の二つの宮都の変遷を通じ、東アジアの古代国家形成期に中央集権体制が誕生・成立した過程を示す「飛鳥・藤原の宮都」は、今年7月、韓国・釜山で開催された第48回ユネスコ世界遺産委員会で世界文化遺産への登録が審議されました。

6～8世紀の史跡名勝からなる構成資産は隣接する^{かしはら}橿原市・桜井市と合わせて19件、このうち15件が明日香村にあります。

キトラ古墳



伎楽



牽牛子塚古墳



▲飛鳥寺



▲飛鳥寺（飛鳥大仏）

明日香村の歴史

明日香村は、推古天皇が豊浦宮で即位されて以降都があった場所で、中大兄皇子（天智天皇）・中臣鎌足による乙巳の変（大化の改新）の舞台でした。蘇我馬子の墓とされる石舞台古墳や天皇や皇族らが眠る陵墓など、古墳時代から古代にかけての遺跡・文化財が数多くあり、国宝4件、特別史跡3件含む47件が国指定されています。

天皇が住まい政治が行われた飛鳥宮跡、日本初の本格的な仏教寺院飛鳥寺の飛鳥大仏、壁画が有名な高松塚古墳・キトラ古墳、斉明天皇の陵墓とされる牽牛子塚古墳などがあります。



風土と人の心が築き上げた

古代文化の香り豊かな郷

明日香村



明日香村
公式Instagram



@ASUKANAVI

明日香村
公式HP



【写真提供】

- 一般社団法人飛鳥観光協会
- 明日香路を写そう写真コンクール
- 飛鳥寺